

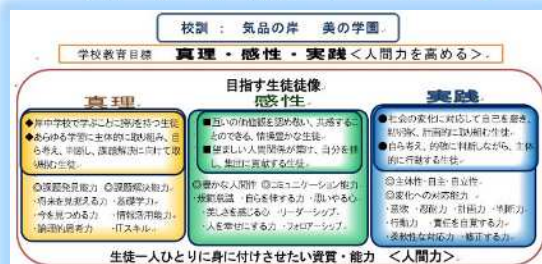
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では、SDGs 教育を推進しています。



さいたま市立
岸中学校



■ 所在地：さいたま市南区南本町2丁目25番27号 ■ 電話：048-822-4022
■ FAX：048-835-1358 ■ 交通：JR 南浦和駅西口から線路沿い北へ徒歩約10分

01 ICT を活用した総合的な学習の時間



総合的な学習の時間（究めタイム）において、全学年がSDGsについて学習しています。17の



目標から各自が1つを選び、その実現に向けて自分がどのような貢献ができるか、どのように行動していくのかについて探究しています。探究した内容をまとめたり、ICT 機器を活用して発表したりして考えを共有し、さらなる探究につなげるなどの学習に取り組んでいます。

02 カナダとの国際交流



平成元年8月に幕を開け、30 数年間にわたり、国際教育の一環として、カナダのリッチモンド市の



の学校（マクロバーツ・マックマス校）との姉妹校交流を行ってきました。平成27年度からはラングレー市にある新設校のヨークソン・クリーク・ミドルスクール校との交流が始まりました。令和5年度からは、新たにサレー市にあるリージェントクリスチャンアカデミー校との国際交流活動を開始しています。

国際化の時代を迎え、岸中学校の生徒が世界に向かって堂々と渡りあえる人物になれるよう、今後もこの国際交流を発展させていきたいと考えています。

03 食育の推進



栄養教諭と各教科等が連携した授業において、バランスのよい日本型食生活（家庭科）、世界の食文化（特別活動）、食料自給率・地産地消（社

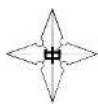
会科）、生活習慣病（保健体育）等の食育の取組を実践しています。このことから、健康寿命の延伸、食料自給率の向上、地球環境への負担軽減につながることを目指しています。また、給食委員会による「残食ゼロキャンペーン」を実施することにより、食品ロスの意識を高めています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では、SDGs教育を推進しています。



さいたま市立

南浦和中学校



本校は、「日に新た 心豊かに たくましく」を学校教育目標に、以下の3点を「学校経営方針」として教育活動に取り組んでいます。

- 1 生徒一人ひとりの多様な幸せ【Well-being】を実現するために、生徒個々の可能性を引き出す教育活動を展開する。
- 2 学校生活に不安や悩みをもつ生徒・保護者の思いを、今まで以上に受け止め、寄り添い、誠実に対応する。
- 3 生徒の頑張る姿を認め、励まし、支え、その活躍を発信する。



■ 所在地：さいたま市南区辻 6-1-33 ■ 電話：048-863-0753
■ FAX：048-836-1589 ■ 交通：JR 埼京線・北戸田駅下車 徒歩 10 分

01 生徒一人ひとりが多様な幸せを実現するために



○南浦和中学校「生徒に期待する行動指針」、「いじめ撲滅スローガン」のもと、「いじめ撲滅の木」やあいさつ運動に取り組み、「1 やってはいけないことはやらない。」「2 やらなければならないことはやる。」「3 やってもやらなくてもどちらでもよいことであっても誰かのためになることはやろうと努める。」という3つの行動がとれる生徒の育成を目指します。生徒一人ひとりが多様な幸せ【Well being】を実現するために教育活動を展開しています。

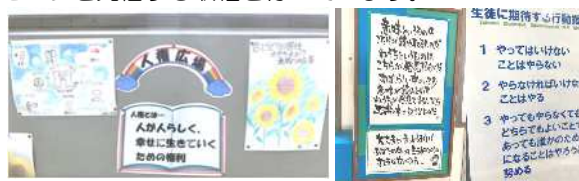


02 SDGsに係る意識や人権感覚を育む学校環境の整備と授業



- ① 生徒が意欲をもち、かつ集中して授業に取り組めるよう校内外の環境整備、美しい掲示物の作成に取り組んでいます。また、自分の思いや考えを端的に伝えられる生徒を育成するため、学習の「不易と流行」のベストミックスを目指し、生徒の「発表力・伝える力」を伸ばすための授業を研究しています。
- ② 人権意識を高めるための「校内人権ラリー（掲示物）」、見通しをもって取り組むための「カウントダウンボード」、実行委員や行事の代表を鼓舞するメッセージなど、事あるごとにメッセージを発信する取組を行っています。

- ③ 「総合的な学習の時間」を活用した SDGs の学習を行います。校外学習や館岩自然の教室、修学旅行の体験活動を通して、その地域の自然と歴史、文化や人物を調べ、体験をして学んだ内容を深める取組を行います。



03 SDGsの目標に迫る生徒会活動の推進

○「英明果敢：We aim for アクセス」の生徒会活動方針
ア…あいさつ ク…クリエイティブ セ…誠実 ス…スマイル

*委員会活動を通して、SDGsの目標に迫る取組を行います。

*推進委員会を立ち上げ、保護者や地域向けにフォーラムを開催します。

- | | | | |
|--------|---------------|--------|--------------|
| ○生徒会本部 | 目標 10 16 17 * | ○学級委員会 | 目標 10 17 * |
| ○生活委員会 | 目標 10 16 | ○整美委員会 | 目標 6 11 * |
| ○体育委員会 | 目標 3 | ○給食委員会 | 目標 2 |
| ○図書委員会 | 目標 4 * | ○放送委員会 | 目標を達成するための広報 |
- (*…環境美化・掲示)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では SDGs 教育を推進しています。



さいたま市立
白幡中学校



本校は、学校教育目標に『主体的に学ぶ生徒 正しく判断できる生徒 心身を鍛える生徒』を掲げています。白幡中学校のグラウンドデザインを基に、新時代の教育に対応するために、現代的な課題を取り入れながら、ICT の活用をしています。令和2年度より、総合的な学習の時間で SDGs を軸に、各学年・各教科・各領域にも結び付けて、学校全体で SDGs の取り組みをスタートした“行動の4年目”です。



■所在地：さいたま市南区白幡 2-1 8-1 3 ■電話：048-861-3203
■FAX：048-836-1587 ■交通：埼京線・武蔵野線 武蔵浦和駅 徒歩7分



01 “SDGs×STEAMs”～実社会で生きて働く力を～

白幡中学校では SDGs を柱とする ESD 教育に加えて、STEAMs を柱とする防災教育を行っています。地震大国・日本に住む私たちは、常に災害と隣り合わせで生活しています。3.11 の東日本大震災の記憶がない世代が、いかに“ジブンゴト化”するか。“圧倒的当事者意識”を持つためには、実際に経験する中で身に付けさせることは重要だと考えています。地域のコミュニティと交流しながら、身近な地域のフィールドワークをして、自分の目や鼻、耳など五感をフル活用して、子ども・大人・学校・家庭・地域のすべての人たちに生きて働く力が育つ取組をしていく予定です。



防災フィールドワーク報告会 (R5)

02 “学びの持続可能を目指して”～3年間で地球市民に～

SDGs の目標達成は 2030 年。あとわずか6年しかありません。少しでも早く地球市民としての自覚と行動に繋げるために、SDGs を軸に総合は3年間を見通したカリキュラムマネジメントをしています。義務教育のゴールとして、3年生では SDGs をテーマに1人ひとりが『卒業論文』を作成します。これから生きる子どもに生きて働く力の育成と ICT の推進校であるメリットを生かし、1人1台タブレットを活用して、パワーポイントでの卒論発表会を行っています。2年生ではキャリア×SDGs での取組を、1年生は、日常の“身近な SDGs”を取り上げて、多様な発表方法で、自分でテーマ・学習計画を立て、学びを調整しながら“私の SDGs プレゼン発表会”を行う予定です。



SDGs 卒論発表会の様子 (R4)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では SDGs 教育を推進しています。



【目標とする生徒像】 自立・共生・錬成
・自ら進んで学習する生徒 ・心豊かな生徒 ・粘り強く目標の実現に向けて努力する生徒

■所在地：さいたま市南区大谷場 2-13-54 ■電話：048-882-9962
■FAX：048-811-1336 ■交通：J 南浦和駅徒歩 10 分

01 大谷場中レスキューサポートチームの活動



本校では、保健委員会を中心に「生徒版 ASUKA モデル」を作成し、「救命活動とは何か」「救命活動の際に自分たちができる行動は何か」「必要な行動を誰がおこなうのか」などを自分たちで考え、実践練習に取り組んでいます。

保健委員は「傷病者の対応」、体育委員は「応援の要請」、給食委員は「AEDの手配」、環境美化委員は「周囲の安全確保」、放送委員は「119番通報の依頼」、図書広報委員は「状況の記録」など各クラスにいる専門委員それぞれに役割が分担され、学級生活委員はクラスを落ち着かせると共に、各委員会への指示カードを配付し、それぞれの働きが円滑に進むように調整を図ります。仲間の取組を通して、レスキューサポートチームに所属していない生徒にも、救命活動への理解が深まっている様子が見られています。

02 健康教育講演会（思春期保健教室）の実施



本校では3年生を対象に、保健所地域保健支援課の思春期保健事業「思春期保健教室」を実施し、思春期の生徒に妊娠出産や性感染症に関する正しい情報を伝え、性行動の低年齢化という現状を踏まえ、望まない妊娠を避け、自己決定できるための情報を得る機会としています。

毎年、事前アンケートによって意識づけをしてから講演会を行い、当日は真剣に耳を傾けています。また、事後アンケートでは、「自分の心と体をきちんと理解すること」「自分の気持ちに素直になること」「相手への思いやり」などが大切だということが分かったといった意見が見られました。この教室を通じて、SDGsの目標3「あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に寄与していきたいと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では SDGs 教育を推進しています。



さいたま市立
大谷口中学校



本校では、持続可能な生物多様性の取り組みに着目し、身近な問題に目を向けて取り組んでいく。生きていくことに必要な、衣・食・住は SDGs の環境・社会・経済と密接にリンクしていることを意識し、バランスよく考えられる柔軟な思考を鍛える。また、学級単位で目標を達成するためには、その目標を「自分ごと」として捉え、クラスで協働して取り組む必要があることを知り、学校全体で成果を確かめ合うことによって、社会参画意識への向上を目指す。



■所在地：さいたま市南区広ヶ谷戸 21

■電話：048-887-1000

■FAX：048-811-1335

■交通：国際興業バス稲荷越バス停より徒歩 2 分

01 今地球に起きていることを知って自分から行動しよう



総合的な学習の時間で、まず知ることから始めよう！をテーマに、地球規模で起きている身近な問題に目を向け探求学習を行っていく。学習の充実を図るため図書資料や、ICT の活用を充実させていく。1 年生では、ゴールの目標 1 つ 1 つについてを学習していく。2 年生では、身近な問題をエシカル消費の視点（地球環境や、人、社会、地域に配慮した考え方）から学習する。3 年生では、さいたま市の SDGs の取り組みを学習し、地域に貢献できる活動を提案したり、自ら行動できる力を身に付けたりできるようにする。

02 給食の残食ゼロを目指そう



給食の食べ残しは、食品ロスのほかに CO2 排出量の問題や、フードマイレージ、バーチャルウォーター、ウォーターフットプリント、カーボンフットプリント、地産地消がいい理由など、私たちが生きていくことに様々なものや人がかかわってくることを消費者の視点から考えるエシカル消費を学習したうえで、「食べ残しの削減を目的とした食育・環境教育」を行っていく。

食品ロスは、すでに身近な問題である。大谷口中学校では、見える効果を期待し、自分たちの一口で、飢餓や貧困がなくなることや毎日の生活の中で意識付けしている。4 月から、すでに給食室での毎日の残食量を、放送委員がお昼の放送で全校生徒に発表し、残食ゼロを呼びかけている。生徒自らが、この運動から、どのような工夫で残食が減るのかを考え行動できるようにしたい。

03 ゴミの分別の徹底・ゴミを出さない考え方を持とう



学校から出るゴミの分別や、各家庭からリサイクルできる衣料品などを率先して回収し、自分たちの行っている行動が、未来の地球のためにどのような役割を果たすのかを学習し、実践していく。学校からのお知らせや、学習で使用する印刷物の削減や、資源を無駄にしない、ゴミを出さない工夫を教師自らが、ペーパーレス化・ICT の活用に移行していく。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では、SDGs 教育を推進しています。



さいたま市立
内谷中学校



〈学校教育目標〉 進んで学ぶ 心豊か たくましく

【目指す生徒像】

- 目的意識をもち、意欲的に学習に取り組む生徒
- 他人の痛みが分かり、思いやりのある生徒
- 自分で考え、正しい判断のできる生徒
- 行事や部活動等に積極的に参加する生徒
- きまりや約束を大切にする生徒



■所在地：さいたま市南区内谷 6-10-1

■電話：048-861-7571

■FAX：048-836-1586

■交通：JR 武蔵浦和駅 徒歩 15 分

01 「食」を通した SDGs の取組



「食」と中学校は切っても切れない関係にある。毎日、温かくて美味しい給食を楽しみに学校に来ている

生徒もいる。多くの生徒が「食」と聞くと、楽しい晩御飯や給食を簡単にイメージできるだろう。しかし、「食育」となるとどうだろうか？「食育」を考えながら生活をしている生徒は少ないように思える。ましてや、「SDGs」となるとその数はきっと数えるほどだろう。「食育」は世界的に見ても重大な課題の1つである。日本にいて安全な食事をとることができる中学生にも決して無関係な話題ではない。そこで本校の3年の総合的な学習の時間のテーマとして「食育」を設定した。「食」を中心とした世界との関わりや、SDGsと「食」の関係、和食文化を通した国際理解等に取り組んでいく。取組を通して、生徒自身が発見した課題をもとにテーマを決め、将来に向けて「日本人」として、また、「世界の一員」として、自分がどのような活動や社会貢献ができるかを探究していく。

02 生徒会活動を通した SDGs への取組



本校では生徒会活動を通して、生徒自らがより良い学校に作りあげていく取り組みを行っている。これまでも目安箱を設置し、そこに寄せられた意見を反映

させる取組や、生徒の意見を取り入れた生活の決まり作りを行ってきた。

昨年度は各委員会活動と「達成すべき17の目標」をリンクさせ、活動を行った。例えば、図書委員会では、SDGs コーナーを図書館に設置し、生徒の興味関心を高める活動を行った。美化委員会では、誰もが暮らしやすい学校の実現に向け、学校環境を整備しみんなのトイレを設置する活動をした。今年度は、より各委員会の特色を生かし、活動を充実させていく。さらに活動の中で発見した課題をさらに生徒中心に検討し、目的意識をもち、昨年度以上に意欲的に課題に取り組む生徒を育てていく。また、学年の新たな取り組みとして企業とのコラボ学習 UNIQLO「服のチカラプロジェクト」を3年生で実施する。